

特集

read write talk

「読む、書く、話す」 で、教育力の充実を

入学生の「読む、書く、話す」能力が、授業に参加するには不十分であると感じることは少なくないでしょう。そのため、初年次教育として、それらの能力を高めるためのプログラムを取り入れる大学、専門学校は近年増加しています。これはつまり、学生がそれまでに学んだことだけでは、専門教育についていくのには足りないと判断されてのことです。翻って、教員としての「読む、書く、話す」能力は、その先生がそれまで学んだことで足りているでしょうか、教育者として授業を行うのに十分でしょうか？ ただ、看護師の先輩としての立場のみで「教育」にあたってはいないでしょうか？

大学では、設置基準の改正により、今年度より教員を含むSD(Staff Development)が義務化されました。自分が学生や院生として、あるいは専門家として学んだことだけで「教育」できるとする見方は通用しなくなります。当然専門学校においても、教員には同様な能力が求められるでしょう。

弊誌ではこれまでも、看護教員の教育力 UP のための継続研修の必要性について取り上げてきました。教育技法や教育理論を学ぶことももちろん重要ですが、まずは教員としての「読む、書く、話す」能力の向上から始めませんか？ それが教育力の向上にもつながります。今回の特集の筆者らが学んできた、そしてこれから学んでいくことを参考に、研修受講、研修企画を進めていただけることを願っています。